

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	飯山のそばによる元気な地域づくり事業(第 2 弾)
事業主体 (連絡先)	飯山そば振興研究会 (0269-62-3111[.研究会事務局])
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,765,999 円 (うち支援金 : 1,344,000 円)

事業内容

(1)ソフト事業

- 銀座 NAGANO でのイベント開催
「いいやまそば」を知ってもらう為の一環として、夏期(8月30日)には豪雪地ならではの「雪室熟成そば」、晩秋(11月27日)には新そばの試食会を開催した。
- そばの打ち手育成の取組み
飯山市公民館と共催で、打ち手講習会を開催し、会員2名を含む7名の受講者が毎月第2土曜日に、製麺所において受講した。

(2)ハード事業

- 製麺所の設置をし、最小限麺の製造販売が取組める施設機材(冷凍庫・冷蔵庫・真空包装機・そば打ち台他)を整えた。



【銀座 NAGANO イベントの様様】

【目標・ねらい】

- ① そば栽培技術の向上安定の取組み
- ② 「いいやまそば」の認知に向けた取組み
・雪室熟成そばの製品化
- ③ そばの打ち手育成

※自己評価 【A】

【理由】

- 栽培技術向上
会員の情報交換、研修会を通じて、大幅な向上が見られる。
- 雪室熟成の効果把握
イベント・試食検討を重ね、商品化に十分な価値があることを把握

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

(1)ソフト事業

- ・銀座 NAGANO での試食会の折に取りまとめをしたアンケート結果によると、「北信州いいやま雪室熟成そば」について、思った以上の評価を得たことは豪雪地飯山ならではのそばのブランド化に拍車がかかった。
- ・次年度に向けては、研究会の栽培圃で収穫できた玄そば 50 袋(22.5 kg/袋)を雪室へ入れ、令和 2 年夏以降「北信州いいやま雪室熟成そば」の提供を計画することが出来た。
- ・そばの打ち手育成にあたっては、10 名の公募に会員を含め 7 名の参加があった。今年度は、二八そばを基本とした講習会を開催したが、次年度においては富倉そば(そば粉+オヤマボクチ)の講習会開催予定。

(2)ハード事業

- ・研究会発足 2 年目を迎え、栽培技術向上のための講習会を開催し、特に施肥技術については、会員内の優秀な実績を出している事例を学ぶ中で取組み、前年を大きく上回る実績を上げることが出来た。10 a 当たり収量も目標をクリアーできた。

収穫面積 前年実績：8.41ha →本年実績：14.4ha 伸び率(170%)

乾燥調製数量 前年実績：197 袋 →本年実績：570 袋 伸び率(289%)

と、作付面積、収穫量とも大幅の伸びがあった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 飯山市内に、研究会の基幹店(食堂)を設置し、雪室熟成そばの顧客への周知とブランド化に向けて取り組んで行く。
- ② 市内飲食店(そば店)に研究会加入を勧め、地域内産玄そばの地産地消と、「北信州いいやま熟成そば」の普及に取り組む。
- ③ 生そばの流通上の課題として、極めて麺の品質維持が難しいことが挙げられる。顧客に安心して購入してもらえる「いいやまそば」の販売流通に取り組む。
- ④ 手打ちそばの希少性を「売り」にできる販売戦略の構築と合せ、管内で生産される玄そばの全量消費をめざし、地域内における付加価値向上に取り組むと共に、引き続き「そば打ち手育成」に取り組んで行く。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある